

動画コンテンツを用いた授業実践のご紹介

—学研VODコンテンツで授業が変わる—

株式会社 学習研究社 文教事業部 教育コンテンツ課 長岡 平助

h.nagaoka@mmf.gakken.co.jp

1、はじめに

ある教育工学関係者の言葉に、「きらびやかなIT機器やコンテンツを駆使することに終始した授業は是か」というものがある。答えは当然、否である。IT機器やコンテンツはあくまで授業を補完するものである。児童・生徒の理解や興味関心を他所にした授業には寸分の意味もない。

今回、ここに紹介する授業実践の中では、動画コンテンツは全て「従」の立場にある。「主」は教員であり児童・生徒であり、何より児童・生徒が「分かること」にある。IT機器やコンテンツが物珍しい時代は速くに過ぎた話である。これからの課題はそういったものを用い、これまで以上により良い授業を構築することに他ならない。

動画コンテンツを用いた結果、これまでより指導が簡便になった。あるいは、児童・生徒の興味・関心・理解をより引き出せるようになった。そういう声が学校現場に広がることを弊社は切に願う。

2、学研VODコンテンツとは

弊社創業以来50年以上の長きにわたり、撮影・収集した映像をVOD (VIDEO ON DEMAND) 方式で「見たい人がいつでも好きな映像を見られる」を旨に、デジタル化した動画コンテンツのこと。

3、直接体験と動画コンテンツの融合 (瑞浪市立稲津中学校 田中正己教頭)

単元：中学校理科第一分野「身の回りの現象」・利用した動画コンテンツ：「圧力」

生徒にとってなかなか掴み難い「圧力」という考え方。これを動画コンテンツを用いることにより、「圧力」とは単位面積にかかる力であることを理解させる。

ア、動機付け・直接体験・・・1個の紙コップに乗る→潰れる・10個の紙コップに乗る→潰れない。



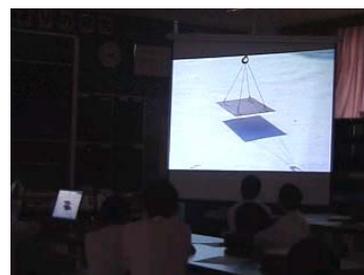
イ、交流・・・なぜなのか。実験の結果から分かることを発表。



ウ、まとめ・・・動画コンテンツの活用。(適宜映像を止め、問いかけも行う) →授業の様子を映像でご覧頂きます

☆教室内で実験可能なことは直接体験させ、そうでない部分を動画コンテンツで補完

(NEW教育とコンピュータ2004年12月号)



4、デジタルとアナログの融合 (高槻市立丸橋小学校 竹村美徳教諭)

単元：小学校6年生理科「人や動物のからだ」・利用した動画コンテンツ：「呼吸のしくみ」

生き物を用いた実験は難しい。そこでこの部分を映像で活用、一方で児童の直接体験も組み入れて呼吸という身近なしくみを理解させる。尚、映像では「BTB溶液」を用いるが、これは「発展的学習」ととらえ児童にもどういったものか説明しておく。

ア、動機付け・興味・関心・・・金魚の呼吸の動画コンテンツを用いる→授業の様子を映像でご覧頂きます

☆動画コンテンツと黒板との融合



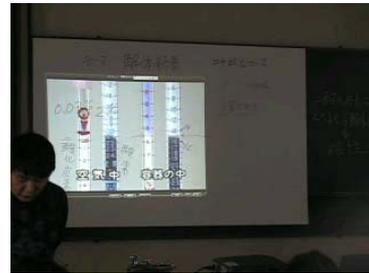
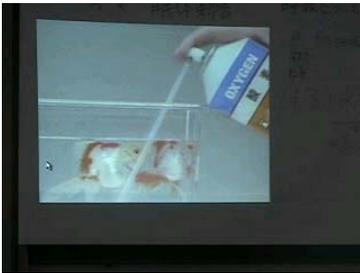
イ、直接体験・交流・・・ビニール袋を口にかぶせて10回息をする→曇る。

息を吹き入れたビニール袋に石灰水を入れて振る→白く濁る。

気体検知管を用いて確かめる。



ウ、まとめ・・・金魚の呼吸の動画コンテンツを用いて確認→授業の様子を映像でご覧頂きます
(NEW教育とコンピュータ2004年4月号では竹村教諭の「火山」の授業内容を掲載)



☆竹村教諭は高槻市が行う小・中教員の交流の一環として丸橋小学校に勤務。

5、さいごに

以上の授業の他、弊社雑誌「NEW教育とコンピュータ」では2004年4月号より毎月、動画コンテンツを用いた授業実践を掲載している。例えば、10月号では福岡県田川市立後藤寺小学校吉本香織教諭・谷口美穂教諭による「ごみの処理と工夫」を、11月号では熊本県人吉市立東間小学校教諭山本朋弘教諭(国立教育政策研究所共同研究員)による「ヒトと動物の体」「生物とかんきょう/ヒトと自然」をそれぞれ掲載、各教諭の個性と動画コンテンツに対する深い洞察を感じられる内容となっている。是非、ご覧頂きたい。

また今後の弊社はもちろん、教育工学全体の課題として、IT活用が「あまり得意でない」方々に、いかにこういったものを活用して頂くか、というものがある。上記のような雑誌掲載によるある種の「啓蒙」もその解決に向けた一歩と言えるが、特に弊社ではこれを、学校内(地域内)の「ノウハウ」の共有化により解決できると考えている。そういったものの活用が「得意な」方々の指導方法等をWEBにアップでき、且つ利用者がそれを自分なりに咀嚼・活用できる全く新しい動画コンテンツシステム「BBバケツ」を開発、今後、この普及、ひいては教育工学全体の活性化に尽力していきたいと考えている。